

## 睡眠時無呼吸症候群の検査とCPAP療法を開始しました

主任臨床検査技師 西田 浩美

当院では新たに睡眠時無呼吸症候群の検査と、経鼻的持続陽圧呼吸療法：CPAP（シーパップ）療法を開始しました。検査は、携帯用装置を用いて自宅で行うスクリーニング検査と、入院して行う精密検査に対応しています。

睡眠時無呼吸症候群の原因で最も多いのが、上気道（空気の通り道）が睡眠中に塞がる、または部分的に狭くなることで起こる閉塞性睡眠時無呼吸症候群です。閉塞により、睡眠中に酸欠状態になり、少ない酸素を全身にめぐらすため、心臓や血管に負担がかかります。この状態が長く続くと、さまざまな生活習慣病の合併症を引き起こす可能性があります。

また、睡眠時無呼吸症候群の患者さんは、健常人と比較して、新型コロナウイルス感染症の罹患リスクが八倍に高まります。このため、睡眠時無呼吸症候群は新型コロナワクチンの接種順上位に位置付ける基礎疾患に含まれています。検査をしていないために自分が優先接種対象者だと気付いていない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

睡眠時無呼吸症候群の症状

### 昼間の症状



### 夜間の症状



自宅で行うスクリーニング検査は、指先に胸にセンサーを装着し、一晚寝てもらうだけの非常に簡単な検査です。しっかり寝ているのに、日中の強い眠気や疲れを感じている方、大きないびきをかいていると指摘された方には、検査をお勧めします。

また、他院でCPAP療法を行っている患者さんの転院も可能です。治療のために遠くまで運転するのが大変な方や、気になる症状がある方は、ぜひ当院にご相談ください。

## 職場体験 ようこそ学生さん

副総看護師長 高橋 清恵

今年度は5月にふれあい看護体験で県立西和賀高等学校の2年生2名、7月にインターンシップで秋田県立城南高等学校より2年生1名、職場体験で7月に湯田中学校2年生2名、9月に沢内中学校2年生1名を受け入れました。それぞれ将来就きたい職業を医師、管理栄養士、看護師と希望し、興味を持って積極的に体験していました。

学生達からは、透析室や救急外来等普段見ることのない看護師の仕事を見学したり、訪問看護に同行したり、患者さんの足を洗って「ありがとう」と言われたのがうれしかった。また、栄養士の仕事を体験出来て医療チームの一員であることが分かった。などの感想が聞かれました。



いつか一緒に働きましょう

院長の講話では深澤晟雄村長の話やさわうち病院の歴史、チーム医療などの内容を、真剣に聞きながら聞いている姿が印象的でした。職業を実際に体験することにより、将来医療職へ就くという強い気持ちや、職業観を養って、進路に活かしていただきたいと思います。私たちは後輩の育成のためにオールさわうちで体験を受け入れていきたいと思っています。いつかさわうち病院で一緒に働く日が来ることを夢見て。

# KTバランスチャートを活用した 当院の取り組み～「口から食 べる」喜びを目指して～

主任作業療法士 赤石 季枝

高齢者の方々が病気を発症すると、元気になるまでに多くの時間を要することがあります。治療のための絶食や臥床時間が長ければ、それだけ体力も落ちてしまう傾向にあります。当院では、病気や治療後の廃用症候群等により「食べる・飲み込む」機能が落ちてしまった患者さんに対し、KTバランスチャートというツールを使って評価し、経口摂取が可能となるように摂食機能療法としての介入を行っています。

KTバランスチャートとは、小山珠美先生が発表した「対象者の口から食べる支援において、包括的な視点で多職種による評価とアプローチをするためのアセスメントツール」です。KTバランスチャートを用いた食支援では、摂食嚥下視点のほかに姿勢・活動視点、食物形態・栄養的視点と多面的に構成され、13項目に分類されています（図参照）。1～5点で採点していき、点数の高い項目はその人の維持するべき強みの側面と認識でき、点数が低い項目は予防・ケアの充実を図るべき側面と認識できます。レーダーチャートで可視化することで介入ポイントが明確化され、多職種間での共有が容易となり、患者様の食支援を共通の認識としてサポートすることができます。

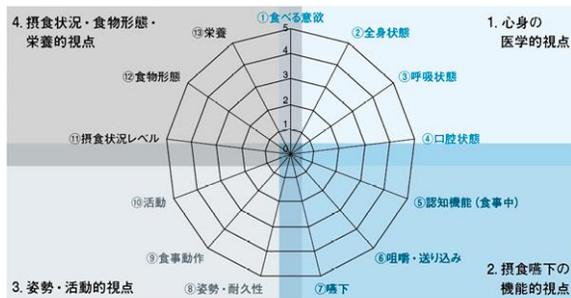


図1 KTバランスチャート  
食支援に必須で、複合的に運動する4つの視点を基盤にした13項目で構成される各項目を5段階評価(1～5点)する  
(「口から食べる幸せをサポートする包括的スキル」医学書院, 2017より引用)



多職種で取り組んでいます

また、評価回数を重ねることで経時的変化も把握できるため、介入効果や課題も明確になります。当院では令和3年10月からKTバランスチャートの導入を本格化し、看護師が日々の訓練を実施することで、食形態の改善に至った患者様が多数に上っています。今後もKTバランスチャートを用いた食支援を継続していき、患者様の「口から食べる」を実現する為の食支援をしていきたいです。

編集後記

退院サマリーは、入院中の経過を要約したもの、当院では看護サマリー、医療・介護連携シートの2種類をケアマネージャーや施設・病院へ発行しています。

看護サマリーは、治療に関する事を中心に書かれ、医療・介護連携シートは日常生活動作や認知症状を伴う生活面の対応法などが記載されています。どちらも退院後、医療と介護の関係機関に連携し包括的なサービス提供につながるようになっています。

令和4年度の発行数は、看護サマリー35件、医療・介護連携シート69件となっております。今後とも、わかりやすい退院サマリイの記載を心がけていきますが、お気づきの点があれば、ご連絡室へお問い合わせ下さい。

上席主任看護師 佐々木 昇子